

米同時テロ

「心理的ケアが中心」

AMD Aが
帰国会見 支援金の募集も

米国での同時多発テロの被害地、ニューヨークで支援活動をしていた国際的な医療活動を続けるNPO法人「AMD A」は26日、岡山市奉還町2丁目の国際交流センター

で、現地に赴いていた外科医小林直之さん(36)と緊急支援対策局長の小西司さん(37)の帰国会見をした。

2人は21日から3日間滞在し、4つの病院で医師らに医療状況などを聞き取り調査。小林医師によると、外傷患者に対する初期治療はすべて終了しており、被害者や家族への心理的なケアが中心になっていたという。

こうした状況から、連携している現地の市民団体「AJWS」が今後、重点を置く低所得者層への生活支援と心のケアなどの活動を進め、AMD Aは側面から支えていくことを決め、活動経費などとして1万ドルを提供した。小西さんは「必要な活動は現地に任せただけがよいと考えた。資金などの面で援助を続けた

い」と話した。

また、AMD Aでは支援金を募っている。郵便口座01370・3・4867「アムダ国際福祉事業団」名義で受け付け、通信欄に「反テロ人道支援」と記入する。